

研究結果報告書

奈良・平安時代における「詩経」古鈔本に関する総合的研究：敦煌、トルファンで出土した「詩経」の写本との比較を中心として

所属：上海師範大学 哲学与法政学院

役職：教授

氏名：石 立善（他1名）

本研究は、日本各地に所蔵される奈良・平安時代の古鈔本『詩経』を全面的に調査・閲覧した上で研究を行った。現存する日本の古鈔本『詩経』の全貌と学術上の意義を明らかにした。まず、東洋文庫所蔵の『毛詩伝箋』は八篇、一百十三行が残されているが、奈良時代（710- 784）初期に書写されたもので、諸鈔本の中で年代が最も古いものである。敦煌出土の写本、すなわちフランス所蔵 P. 2529『毛詩伝箋』と内容が重なるが、東洋文庫本のほうが時代が古く、六朝時代のテキストの系統に属する。また、後世の人に妄りに加筆・修正された痕跡が見つかり、テキストの混乱と誤認を引き起こす要因となったことが判明した。現存の諸写本の中で、東洋文庫本の価値が最も高いと言えよう。つぎに、高知大学と天理図書館所蔵の残巻である唐代の『毛詩正義』の「小戎」・「蒹葭」篇は各一葉が残されているが、筆跡や書式などから、京都市所蔵の残巻と本来一つの卷子本の断片で、復元することができる。唐の写本を底本に、日本人の手によって奈良時代の末・平安時代の初期に転写されたものであろう。武田科学財団の杏雨書屋所蔵の南宋時代刊行の単疏本『毛詩正義』を校勘・研究する上で、重要な意義を持つ。その三、大念仏寺所蔵『毛詩伝箋』二南の残巻は現存二十篇、三百二十四行で、唐の皇帝の名を避諱しないことから、遅くとも隋の時代の写本の系統に由来するであろうと推定する。そのテキストの性質は非常に複雑で、三家詩がすでに混入されたものである。宮内庁図書寮所蔵の鎌倉時代の写本『群書治要』に引かれた『毛詩』も同じく三家詩の文字が混入されたと判明した。以上の調査や考察により、日本現存の奈良・平安時代の古鈔本『詩経』の全貌がほぼ把握できた。これらの古鈔本は敦煌・トルファン出土の唐代写本と比較しても、勝るとも劣らない価値を持ち、日本における『詩経』受容史の考察や歴代刻本のテキスト校勘研究において、たいへん重要なものであると言えよう。

研究成果の公表について

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

1. 「論『群書治要』所引『毛詩』」、石立善、「西域と東瀛：写本經典の研究国際シンポジウム」、2015.11、上海師範大学會議センター
2. 「吐魯番新出土古写『毛詩』残卷校録及研究」、石立善、「古籍新詮：先秦兩漢文献研究国際シンポジウム」、2017.11、香港中文大学文学院會議室
3. 「日本漢籍典籍西伝中国百年之歴史」、「第五回兩岸古籍保護与研究」シンポジウム、2018.4、台湾中央研究院會議堂
4. 「日本古写卷子本『玉篇』引『尚書』考」、石立善、「中国の經学と日本の經学」国際シンポジウム、2018.12、中央大学記念館

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

1. 「日本古鈔本『毛詩伝箋・唐風』研究」、石立善、『域外漢籍研究集刊』第17号、2018
2. 「日藏古写本隋劉炫『孝經述議』引書続考」、石立善、『歴史文献研究』2018年第2号
3. 「隋劉炫『孝經述議』引書考」、石立善、『中国經学』第19号、2017
4. 「德国柏林旧藏吐魯番出土唐写本『毛詩正義』残葉考」、石立善、『古典学集刊』第1辑、2015
5. 「宋刊单疏本孔穎達〈毛詩正義・鄭風〉校箋」、石立善、『經典与校勘論叢』所収、北京大学出版社、2015
6. 「書評 野間文史『五經入門：中国古典の世界』」、石立善、『中国經学』第16号、2015年

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）

1. 『日本漢学珍稀文献集成 年号之部』、全五册、上海社会科学院出版社、2017（石立善、水上雅晴共編）